

B-MOSアップデート内容（2026/04/09公開）

2026年4月9日 公開のネットアップデートの追加機能や変更箇所等については、以下の内容となります。

ハウストラ・構造チェッカー・壁量計算

◆積雪荷重および、小屋裏物置等の面積を「含める／含めない」の条件設定を追加

令46条壁量計算／必要壁量の計算で、「積雪荷重」および「小屋裏物置の面積」を「含める／含めない」の条件を設定できる機能を追加しました。

壁量計算条件設定

小屋裏物置等の扱い
床面積当たりの必要壁量 L_w 計算時の床面積 A_{fi} に小屋裏物置等の面積を
 含める 含めない

積雪荷重設定
令46条壁量計算及び柱の小径の検討の床面積当たりの必要壁量 L_w 計算時の建物荷重 W_i に積雪荷重を
 含める 含めない

初期値として記録する

了解 中止

<条件設定箇所>

- ・[ハウストラ] : 設定／計算用数値の設定／壁量計算条件設定
- ・[構造チェッカー] : 設定／壁量計算条件設定
- ・[壁量計算] : 設定／壁量計算条件設定

※積雪荷重は、「 W_i 」および「 ΣW_i 」に反映します。

※小屋裏物置等の面積は、床面積「 A_{fi} 」に反映します。

※【壁量計算】メニューバーの[建物概要]に積雪荷重設定を追加しました。

※積雪荷重を含める設定にした時は、柱の小径の確認も積雪荷重を考慮した計算になります。

小屋裏物置

[耐力壁量] - [必要壁量の計算]

戻る 1階 2階 一覧 地震用荷重の計算 必要壁量の計算 存在壁量の計算 壁量の様

床面積当たりの必要壁量の計算(令46条壁量計算)

・床面積当たりの必要壁量は、下記の算定式によって算出する
算定式: $Lw=(Ai \cdot Co \cdot \Sigma Wi)/(0.0196 \cdot Afi)$
Lw: 床面積当たりの必要壁量 (cm/m²)
Wi: 当該層の地震用荷重 (kN)
 ΣWi : 当該層が負担する地震用荷重 (kN)
Ai: 層せん断力分布係数
 $Ai=1+((1/\sqrt{\alpha i})-\alpha i) \times 2T/(1+3T)$
 $\alpha i=\Sigma Wi/\Sigma W1$
 $T=0.03h=0.03 \times (6.225+8.583) \div 2= 0.222$
Afi: 当該階の床面積 (m²)
・地盤: 第2種地盤 (標準せん断力係数Co = 0.2)

床面積に乗ずる数値

67.89	21
72.86	35

階	Wi	ΣWi	αi	Ai	床面積 Afi (m ²)	床面積に乗ずる数値 (cm/m ²)	
2階建	2	103.99	103.99	0.427	1.294	67.89	21
	1	139.67	243.66	1.000	1.000	72.86	35
平屋建	1	---	---	---	---	---	---

小屋裏物置等の面積「含める」の場合

戻る 1階 2階 一覧 地震用荷重の計算 必要壁量の計算 存在壁量の計算 壁量の様

床面積当たりの必要壁量の計算(令46条壁量計算)

・床面積当たりの必要壁量は、下記の算定式によって算出する
算定式: $Lw=(Ai \cdot Co \cdot \Sigma Wi)/(0.0196 \cdot Afi)$
Lw: 床面積当たりの必要壁量 (cm/m²)
Wi: 当該層の地震用荷重 (kN)
 ΣWi : 当該層が負担する地震用荷重 (kN)
Ai: 層せん断力分布係数
 $Ai=1+((1/\sqrt{\alpha i})-\alpha i) \times 2T/(1+3T)$
 $\alpha i=\Sigma Wi/\Sigma W1$
 $T=0.03h=0.03 \times (6.225+8.583) \div 2= 0.222$
Afi: 当該階の床面積 (m²)
・地盤: 第2種地盤 (標準せん断力係数Co = 0.2)

床面積に乗ずる数値

※ 61.27	23
※ 66.24	38

階	Wi	ΣWi	αi	Ai	床面積 Afi (m ²)	床面積に乗ずる数値 (cm/m ²)	
2階建	2	103.99	103.99	0.427	1.294	※ 61.27	23
	1	139.67	243.66	1.000	1.000	※ 66.24	38
平屋建	1	---	---	---	---	---	---

※床面積は小屋裏物置等の面積を除外した値

小屋裏物置等の面積「含めない」の場合

! 小屋裏物置等の扱いについて

「小屋裏物置等の面積」は、【平面図】/ロフト/ロフト作成で入力した領域が反映されます。
入力した「小屋裏物置等の面積」が、**存する階の床面積の 1/8 以下**となる場合は、設定で「含める」を選択していても、**面積には算入しません。**
ただし、「ロフトの設定」で「床面積に算入」のチェックを「ON」にしている場合は、面積に算入します。

積雪荷重

[耐力壁量] - [必要壁量の計算]

戻る 1階 2階 一覧 地震用荷重の計算 必要壁量の計算 存在壁量の計算 壁量の様

床面積当たりの必要壁量の計算(令46条壁量計算)

・床面積当たりの必要壁量は、下記の算定式によって算出する
算定式: $Lw=(Ai \cdot Co \cdot \Sigma Wi)/(0.0196 \cdot Afi)$
Lw: 床面積当たりの必要壁量 (cm/m²)
Wi: 当該層の地震用荷重 (kN)
 ΣWi : 当該層が負担する地震用荷重 (kN)
Ai: 層せん断力分布係数
 $Ai=1+((1/\sqrt{\alpha i})-\alpha i) \times 2T/(1+3T)$
 $\alpha i=\Sigma Wi/\Sigma W1$
 $T=0.03h=0.03 \times (6.225+8.583) \div 2= 0.222$
Afi: 当該階の床面積 (m²)
・地盤: 第2種地盤 (標準せん断力係数Co = 0.2)

床面積に乗ずる数値

25
38

階	Wi	ΣWi	αi	Ai	床面積 Afi (m ²)	床面積に乗ずる数値 (cm/m ²)	
2階建	2	128.65	128.65	0.475	1.260	67.89	25
	1	142.28	270.93	1.000	1.000	72.86	38
平屋建	1	---	---	---	---	---	---

積雪荷重「含める」の場合

戻る 1階 2階 一覧 地震用荷重の計算 必要壁量の計算 存在壁量の計算 壁量の様

床面積当たりの必要壁量の計算(令46条壁量計算)

・床面積当たりの必要壁量は、下記の算定式によって算出する
算定式: $Lw=(Ai \cdot Co \cdot \Sigma Wi)/(0.0196 \cdot Afi)$
Lw: 床面積当たりの必要壁量 (cm/m²)
Wi: 当該層の地震用荷重 (kN)
 ΣWi : 当該層が負担する地震用荷重 (kN)
Ai: 層せん断力分布係数
 $Ai=1+((1/\sqrt{\alpha i})-\alpha i) \times 2T/(1+3T)$
 $\alpha i=\Sigma Wi/\Sigma W1$
 $T=0.03h=0.03 \times (6.225+8.583) \div 2= 0.222$
Afi: 当該階の床面積 (m²)
・地盤: 第2種地盤 (標準せん断力係数Co = 0.2)

床面積に乗ずる数値

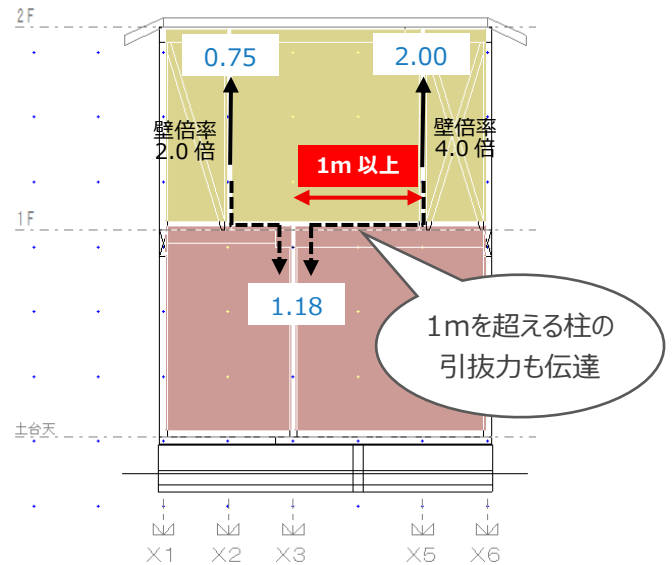
21
35

階	Wi	ΣWi	αi	Ai	床面積 Afi (m ²)	床面積に乗ずる数値 (cm/m ²)	
2階建	2	103.99	103.99	0.427	1.294	67.89	21
	1	139.67	243.66	1.000	1.000	72.86	35
平屋建	1	---	---	---	---	---	---

積雪荷重「含めない」の場合

◆ N 値計算の按分で、1mを超える柱の引抜力の伝達に対応

N 値計算において、上階の柱から伝達する引抜力の影響範囲を 1m 超の範囲も対象となるよう変更しました。（右図参照）



[柱検定] - [柱頭柱脚金物]

戻る ➡

N値計算表 1階階高：2.90m 2階階高：2.85m

座標		階	出隅	通し柱	算定方向	A 1	B 1	A 2	B 2	L	N
X	Y										
1	1	2	○		X	$ (2.0+0.5)-(0) =2.5$	0.8			0.4	$2.50 \times 0.8 - 0.4 = 1.60$
					Y	$ (0)-(2.0+0.5) =2.5$	0.8		0.4	$2.50 \times 0.8 - 0.4 = 1.60$	
		1	○		X	$ (0)-(0) =0.0$	0.8	$ (2.0+0.5)-(0) =2.5$	0.8	1.0	$0 + 2.5 \times 0.8 - 1.0 + 0.38 = 1.38$
					Y	$ (0)-(0) =0.0$	0.8	$ (0)-(2.0+0.5) =2.5$	0.8	1.0	$0 + 2.5 \times 0.8 - 1.0 + 0.38 = 1.38$
2	1	2	-		X	$ (0)-(2.0-0.5) =1.5$	0.5			0.6	$1.50 \times 0.5 - 0.6 = 0.15$
					Y	$ (0)-(0) =0.0$	0.5		0.6	$0.00 \times 0.5 - 0.6 = -0.60$	
		1	-		X						
					Y						
3	1	2	-		X						
					Y						
		1	-		X	$ (0)-(0) =0.0$	0.5	$ (0)-(0) =0.0$	0.5	1.6	$0 + 0 - 1.6 = -1.60$
					Y	$ (0)-(0) =0.0$	0.5	$ (0)-(0) =0.0$	0.5	1.6	$0 + 0 - 1.6 = -1.60$
5	1	2	-		X	$ (4.0+0.0)-(0) =4.0$	0.5			0.6	$4.00 \times 0.5 - 0.6 = 1.40$
					Y	$ (0)-(0) =0.0$	0.5		0.6	$0.00 \times 0.5 - 0.6 = -0.60$	
		1	-		X						
					Y						

2階(X2)筋かい耐力壁による軸力

$$\Rightarrow (2.0 - 0.5) \times 0.5 = 0.75$$

2階(X5)筋かい耐力壁による軸力

$$\Rightarrow 4.0 \times 0.5 = 2.0$$

1階(X3)柱へ伝達する軸力

$$2 \text{ 階 } X2 \text{ より, } 0.75 \times 0.91 / 1.82 = 0.75 \times 0.5 = 0.375$$

$$2 \text{ 階 } X5 \text{ より, } 2.0 \times 0.91 / 2.73 = 2.0 \times 0.4 = 0.8$$

$$\Rightarrow 0.375 + 0.8 = 1.175 = 1.18$$

◆ その他

操作画面内に表示されるリストを、ホイールマウスでスクロールできるように対応しました。

(例：構造チェック／床倍率チェックなど)

◆ [建物概要] の「雪止めあり（積雪低減なし）」を「雪止めを使用する」に変更

[建物概要] の「雪止めあり（積雪低減なし）」の表現を「雪止めを使用する」に統一しました。

<改善前の表現>

- ON : 雪止めあり（積雪低減なし）
- OFF : 雪止めなし（積雪低減あり）

<改善後の表現>

- 「雪止めを使用する」に統一
- ON : 積雪の低減を考慮しない
- OFF : 積雪の低減を考慮する

The screenshot shows a software interface for structural design. It is divided into several sections:

- 地盤・基礎 (Soil/Foundation):** Includes fields for '長期地耐力' (20.0kN/m²), '基礎構造' (with 'べた基礎' selected), '根入れ' (150mm), and '地盤による割増係数' (1.0). Radio buttons for '第一種地盤', '第二種地盤', and '第三種地盤' are present.
- 積雪 (Snow Accumulation):** Includes a '多雪区域' checkbox, a checked '雪止めを使用する' checkbox (highlighted with a red box), '積雪量' (50 cm), and '積雪単位重量' (20 N/cm²).
- 基礎の検定方法 (Foundation Design Method):** Includes radio buttons for '許容応力度計算' (selected) and 'スパン表', and a checkbox for '根入れ深さ120mm未満の内部基礎は、立上り高さとは基礎梁せいをもとに参照するスパン表を選択する'.